

船舶事故等調査報告書

平成24年5月31日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2011横第218号
事故等種類	沈没
発生日時	平成23年12月28日（水） 10時20分ごろ
発生場所	神奈川県葉山町西方沖 葉山町所在の葉山灯台から真方位243° 1.5海里（M）付近 （概位 北緯35° 15.6′ 東経139° 32.2′）
事故等調査の経過	平成23年12月28日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報	
船種船名、総トン数	モーターボート <sup>たいりょう</sup> 大漁丸、0.2トン
船舶番号、船舶所有者等	235-47576神奈川、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、二級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定
死傷者等	なし
損傷	沈没（推定）
事故等の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、平成23年12月28日08時30分ごろ葉山町真名瀬漁港を出港し、同港の西南西約2M沖でシーアンカーを降ろして釣りを始めた。</p> <p>船長は、約30分間釣りを行ったが、風が強くなり釣りを続けることができないことから、帰港することとした。</p> <p>船長は、船外機の左方に座って右手で操作し、東北東の針路をとり、左舷側から波の飛沫を受けながら5～10km/hの対水速力で航行中、左舷後方から大波が船内に打ち込み、バケツで海水をくみ出していたところ、10時20分ごろ次の大波が打ち込んで船尾が沈下し、船首部のみが水面上に出ている状態となった。</p> <p>船長は、船首部のカンザシに足をかけて船体につかまり、防水仕様の携帯電話で海上保安庁に救助を要請した。</p> <p>船長は、海水につかっていたが寒さを感じず、救助されることを信じてなるべく体力を消耗しないよう、じっとして待っていたところ、船首部がほぼ沈下状況になった11時34分ごろ巡視艇に救助され、葉山町葉山港から病院に搬送された。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 北、風力 4～5、気温 約7～9℃、視界良好</p> <p>海象：波高 約0.5～1m、水温 約19℃</p>
その他の事項	<p>本船は、船底が平らな単底構造であり、本事故当時、船体中央にある開口部約80cm四方、高さ約50cmのイケスの船底栓が開放されており、浮力を有する空所は船首部のみであった。</p> <p>本船は、本事故当時、バケツなどで排水しない限り、浸水量は増加する一方であった。</p> <p>船長は、海面状態が本事故当時より悪いときに前方から波を受けて航行したことがあった。</p>

	<p>船長は、毛糸の帽子をかぶり、厚着をした上で合羽上下を着け、救命胴衣を着用していた。</p> <p>本船の最大搭載人員は、3人であった。</p>	
分析	<p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>あり</p> <p>本船は、葉山町西方沖を東北東進中、左舷後方から波が打ち込んだことから、排水が間に合わず、沈没したものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、葉山町西方沖を東北東進中、左舷後方から波が打ち込んだため、排水が間に合わず、沈没したことにより発生したものと考えられる。</p>	
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 船体の構造を考慮し、気象、海象条件によっては、イケスの船底栓を閉鎖して排水し、浮力を確保して航行すること。また、波が高い場合は出港しないこと。</li> </ul>	